金融教育を通したシミュレーション実践 学習指導案

対 象:第1学年○組40名

学校名:埼玉県立春日部高等学校

授業者: 髙野 将弘

1 単元名(題材)

第5章 問題解決 29 モデル化とシミュレーション「お金のシミュレーション」

2 単元の目標

表計算ソフトウェアを使用して、様々な金融シミュレーションを実施し、情報活用能力やコンピュータリテラシーを高めるとともに、シミュレーションの重要性の認識、グラフを読み取る力の育成、金融商品の種類と特徴の理解、また生徒自らの資産形成について考えるきっかけを作ることで、金融リテラシーを高める。

3 生徒の状況

本校生徒は、学習に対する意識が高い。ほぼ全員が共通テストを受験し、多くの生徒が大学進学を目指す高校である。表計算ソフトウェアを使用した経験のある生徒は、約 10 名であり、操作を苦手とする生徒も一部存在する。

4 使用教材

・教科書 実教出版 高校情報 I Python





資産形成シミュレーション.xlsx※第3時使用

授業スライド



5 単元 (題材) の評価規準

5 单九(超物)仍計圖烷华

・シミュレーションとは何か、理解できているか。

知識・技能

- ・複利計算を理解できているか。
- ・定額リボルビング方式の仕組み に関して、理解できているか。
- ・金融商品の種類と特徴の違いを理解しているか。
- ・オートフィルと絶対参照を活用 して効率よく表計算ソフトウェア を使用できているか。
- ・金利による、シミュレーション 結果の違いを理解できているか。

思考・判断・表現

- ・どのような場面でシミュレーションが有効か、考えられているか。
- ・複利計算の仕組みから、表計算 ソフトウェアを使用して、それを 表現できているか。
- ・絶対参照をすべき場合を、自ら 判断できているか。
- ・金融商品による、リターンの違いを、グラフから読み取り特徴を 把握できているか。
- ・自らの現実的な資産形成シミュ レーションを考えて作成し、説明 できているか。

主体的に学習に取り組む態度

- ・積極的に様々な状況下でのシミュレーションを、自ら作成しようとしているか。
- ・自らの資産形成シミュレーションを、本単元で学んだことを積極 的に活かして実施できているか。
- ・自らの資産形成シミュレーショ ンのフォーマットを改変し、より 精度の高いシミュレーションを作 成しようとしているか。

時	★目標 ○学習内容 ・学習活動	■評価規準(評価方法)	
	★貯金シミュレーション、複利シミュレーションから、リボ払いの危険性を理解する。		
第 1 時	○タンス貯金シミュレーション	■絶対参照を使用して、オートフィル	
	・表計算ソフトを使用した計算・絶対参照・オートフィルの	で正しく式のコピーできているか。	
	活用	■単利と複利の違いを理解し、表計算	
	○クレジットカードポイント計算	ソフトウェア上で正しく式を立てられ	
	・関数の使用 絶対参照の復習	ているか。	
	○リボ払いシミュレーション	■表計算ソフトウェアを使いリボ払い	
	・複利と単利の理解	のシミュレーション結果をグラフで表	
	・複利を使用した式の作成	現し、返済状況を読み取れているか。	
	★金融商品の種類を理解し、実際に様々な金融シミュレーションを行い、特徴を把握する。		
	○金融の基本知識(安全性・収益性・流動性、リスクとリター	■金融商品ごとのリスク、リターンの	
	ン、金融商品の種類:預貯金・債券・株式・投資信託)	特徴をグラフから正確に読み取れてい	
	○金融商品の違いによる、リスクとリターンの違い	るか。	
笛	・「様々な資産の年間の値動きの想定」のグラフから、金融商	■金融商品間のリスクとリターン位置	
第2時(本時)	品の特徴を読み取り比較する。	関係を、グラフを読み取り適切にマッ	
時(**	・それぞれの金融商品の位置するリスク、リターンの位置関	ピングできているか。	
平時)	係を適切にマッピングする。	■過去の株式投資の特徴をグラフから	
	○株式投資の期間とリスクの特徴	適切に読み取れているか。	
	・「株式投資の投資期間と年平均リターンのちらばり方」のグ	■様々な金融商品で資産推移をシミュ	
	ラフを読み取り、過去の株式投資の特徴を把握する。	レーションし、結果の違いを把握でき	
		ているか。	
	○様々な金融商品で、資産推移をシミュレーション		
	★金融商品を併用した自らの長期的シミュレーションを作成して資産形成を検討し、コンピュータリ		
第3時	テラシーを高めるとともに、金融教育、キャリア教育を横断的		
	○住宅ローンのしくみ	■住宅ローンの仕組みを理解できた	
	・複利計算のシートをコピーして、住宅ローンの金利を使用	か。	
	し、35 年ローンでのシミュレーションを実施。	■インターネットを使用して、正しい	
		職業情報にアクセスし情報を収集でき	
	○資産形成の総合的なシミュレーションを実施し、自らの資	たか。	
	産形成を検討	■現実性が高く、破綻のない、金融シ	
	・インターネット上の職業情報等を使用して、自らの生涯を	ミュレーションが作成できたか。	
	通した、長期的な資産形成をシミュレーションする。	■自らの資産形成シミュレーションに	
	・シミュレーションの結果を、生徒同士で共有する。	関して、他の生徒に論理的に説明でき	
	・必要に応じて、資産形成シミュレーションための計算式等	たか。	
	の作成において、copilot を使用させる。		

7 本時(全3時間中の2時間目)

(1)本時の目標

金融商品の種類を理解し、実際に様々な金融シミュレーションを行い、特徴を把握する。

(2)本時の展開

(2)本時の展開							
時 間	学	:習内容	学習活動	指導上の留意点			
導入(3分)	○前回実施	した内容の復習	・生徒へ用語の確認のため、発問 (単利・複利)	・数名の生徒に理由も問う。 ・前時に実施したリボルビング			
	○本時のテー(金融商品の ュレーション)理解と金融シミ	・自分自身が、リボルビング方式を使うか、発問。	方式のシミュレーションを例として示す。			
		ンの実施) 本知識の紹介	・安全性・収益性・流動性、リスクとリターン、銀行預金を理解させる。	・3つの性質が全て満たされた 金融商品はないことを伝える。			
展開【(35分)	○銀行預金	をシミュレーショ	表計算ソフトウェアを生徒が操作して、銀行預金の推移をシミュレーションする。 ・このシミュレーションから読み取れることを発問する。	・前時のシートの内容が応用できる。生徒の実施状況を確認し、 ヒントを与える。 ・銀行預金のリターンをグラフから読み取れているか確認。			
	○金融商品の	の概要を紹介	・債券・株式・投資信託を理解させる。	・身近に感じられるようオリエ ンタルランド株を例に株式の説 明を行う。			
	○金融商品の スクとリタ・	の違いによる、リーンの違い	・「様々な資産の年間の値動きの想 定」のグラフから、金融商品の特徴を 読み取り比較し、情報共有を行う。	・金融商品による、リスクとリターンのマッピングに関しても回答させる。			
		様々な資産の年間の値動きの想定 (凡例)					



